

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

佐野高校の教育的使命

Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire ~William Butler Yeats

- ① 自立心と進取の気概の育成
- ② フェアなルール感覚の育成
- ③ 多文化共生・国際理解教育の推進

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の「学習するチカラ」の育成に重点をおいた授業づくりを推進する。
 - ①「授業の構造化」に取り組み、意識的・客観的に授業を見つめ直し「言語活動の充実」をめざす。
 - ②授業で生徒の学習意欲を育むことに尽力する。
 - ③新学習指導要領が提起する「コンピテンシー」ベースの学力育成について、新たな高大接続の在り方を意識した学力育成について、積極的に研修に努め、「佐野高校スタンダード」を完成させる。
- (2) 生徒にはクラブ活動・生徒会活動等を強く奨励する一方、学校での学習を強め、家庭学習の習慣が身につくように環境を整えていく。
- (3) 現行の「キャリアスタディ（CS）」（総合的な学習の時間）をリニューアルするなどキャリア教育の充実で生徒の学習活動を動機付ける。
- (4) 国際教養科の独自化をめざし、アウトプットを重視した実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。
 - ① 極的交流、資格試験合格率アップをめざす。（実用英語検定全員受験の継続）※卒業時英語検定 2 級合格者学年 100 名をめざす。
 - ②アドミッションポリシーに沿った、つきたい学力の点検とカリキュラムポリシーの確立。
- (5) 平成 27 年度 学校経営推進費事業により、第 1 学年・第 2 学年の普通教室 18 教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター（電子黒板機能付き）を導入、さらに自習室を中心に無線 LAN 環境を整備することで ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
- (6) 希望進路達成率(第 2 希望も含めて) 85%以上を目指す。
- (7) 中央教育審議会答申（H26.12.22）には、平成 32 年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学者希望理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学者選抜の材料になる可能性が示された。この状況に対応し、情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。
 - ① グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に身につけさせる。
 - ② 中教審答申には、平成 32 年度以降の入試の多面的な評価の方法として「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。

2 5つの基礎力（対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力、処理力、思考力）を育成する事で自律し、自立できる生徒の育成

- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。 ※部活動加入率 80%をめざす。
- (2) 国際交流、地域交流、を推進する。「人権」、「国際理解（協力）」、「ESD」等の価値観に関する教育を通じて、課題解決能力を獲得させる。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、その中から、生徒自らによるコミュニケーション力育成、課題解決能力育成を期す。

3 シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる新たな学校づくりへの挑戦

- (1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育も十分に行い将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
- (2) 当たり前のこととして、遅刻・服装指導等の基本的な生活習慣、清潔で美しい学校作り、自宅学習時間の確保を考える。
- (3) 情報発信を重要視。可能な限り多くの機会をとらえ、情報発信し、学校を理解してもらうように努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における 3 年間の経年変化を見ると、学校行事の工夫、教え方の工夫、能動的授業、進路指導、納得のいく評価、相談体制、健康管理、プライバシー保守、自己の成長への実感、国際問題等を学ぶ機会、防災対策という多くの項目で継続的に数値がアップしている。これはポイントになる教育活動の全てがこの 3 年間毎年進化していることのためである。 ・一方で、「佐野高校には他の学校にないよさ（特色）がある」と他の一項目だけが右肩下がりである。これは一つ一つの重要な教育活動はうまくいっているのに、それが全体では「よさ（特色）」となっていないことを表している。 ・各取組みがどのような一つの目標に集約するか、あるいは各取組みの中で全職員のエネルギーを集中する核となるものを一つ決めるかなど、大きな方向性を判断する時期がきていることがわかる。 	<p>第 1 回 5/27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人から子どもへのメディアリテラシー教育の充実が、学習習慣の定着と SNS の使用に関する問題を減らせるのではないかな。 ・スマートフォンの使用のルール作りなどは家庭だけでなく、学校も含めて全体で進めることが大切なので、情報共有ができればよいのではないかな。 ・部活動への参加案内は、年度途中にもクラブを紹介する機会があればよい。 <p>第 2 回 11/11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統のある校舎を大切に使っているところだけでなく、ICTを活用した授業を行える環境が整いつつあるところが良い。 ・修学旅行では他の学校の判断に流されるのではなく、佐野高校独自で明確な基準を決めて判断したところが非常に良かった。その対応にこそ佐野高校の魂がこもっているのではないかな。

<p>・来年度の入学生には、課題研究と GTEC 全員受験を新たな教育活動として取り入れる。自己診断結果を反映させ佐野高校らしい新たな特色をつくっていくためのベースになるものと考えている。</p>	<p>・体育館の改修はとてもよかった。剣道場も床板の張り替えをするべきではないか。 ・来客へのあいさつも増えつつありよかった。 第3回 1/27 ・特色が薄れてしまっていることが悪いことだとは思わない。むしろ1つの特色を身につけようとして他がおろそかになってしまうくらいならそれで良い。無理をして他と違うことをしないでよい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 授業改革 授業の構造化と生徒の「学習力」向上を推進する</p>	<p>(1) (あ)「言語活動の充実」を図るなかで、生徒の学習意欲を高めるため研修やその他工夫を行う。 (い) 全国の先進的な取り組みに学び、研鑽する機会を設ける。 (う) 新学習指導要領の実施を見据えた「佐野高校スタンダード」の完成</p>	<p>(1) (あ) 授業に対する工夫度に対する肯定感の向上→80%を維持する) 授業アンケート「授業に対する生徒の評価-教材活用」(H28:79.6%) (い)「考えをまとめたり、発表する機会がある」授業に対する肯定感70%をめざす。 学校教育自己診断(H28:60.2%)</p>	<p>(1) (あ) 授業アンケート「授業に対する生徒の評価-教材活用」(H29: 80.7%) ○ (い) 学校教育自己診断「考えをまとめたり、発表する機会がある」(H29: 67.3%)△ (授業改革の結果、着実に数字が伸びているが目標には一歩足りなかった)</p>
	<p>(2) 学習改革 部活動と学習の両立 学習意欲を高める工夫</p>	<p>(2) (あ) あらたな高大接続テストに対応し、「わかる学力」と「できる学力」を身につけるための方策を開発する。 (い) 生徒の学習意欲を向上させるメソッドの開発を行う。(ユニバーサルデザインを取り入れた学びの空間づくりを行うなど) (う) 高校生として学習する方法や習慣を身につけるための手段を講じる。(週末課題や自習室開設など)そのため、学習診断の機会に学習時間やその他生徒状況を把握する。 (え) キャリア教育を通じて、学習の動機付けを行う。</p>	<p>(2) (あ) 標準的な学習・学力指標である「佐野高校スタンダード」を作成する。 (い) 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」の項目が3.1以上 (H28:3.07) (う) 家庭学習時間を平日・休日とも伸ばす。 (H28: 1年平日54分 休日1時間19分 2年平日53分 休日1時間25分)</p>	<p>(2) (あ) 佐野高校スタンダードは作成・改訂○ (い) 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」(H29 第2回目の生徒意識13.08)△ (う) 家庭学習時間を伸ばす (H29: 1年平日45分 休日1時間23分 2年平日57分 休日1時間20分) 概ね変化なし △</p>
	<p>(3) 英語検定等の取組の強化</p>	<p>(3) (あ) 英語検定については、準2級・2級の全員受験を実施する。またより実力のある生徒には TOEIC、TOEFL 等へのチャレンジをサポートする。英語検定については、教科の授業において指導とサポートを実施する。全員受験を効果的に進め、英語検定の定着とスタンダードを確立する</p>	<p>(3) (あ) 英検において、3学年卒業時に、2級以上合格者40名上をめざす。 (H28:1年9名 2年58名 3年31名内1名1級)</p>	<p>(3) (あ) H29 年度英検2級以上合格者 1年12名 2年20名(内1名準1級) 3年14名(内1名準1級) 計46名 ○</p>
	<p>(4) ICT や教育産業のコンテンツの活用による質の高い授業と講習</p>	<p>(4) (あ) 平成27年度 学校経営推進費事業により、第1学年・第2学年の普通教室18教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター(電子黒板機能付き)の導入し、自習室を中心に無線LAN環境を整備した。ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。</p>	<p>(4) (あ) 4年制大学への8月の第1志望の希望進路達成率(第2志望含む)を31年度末までに85%達成する。 (H28:3年第2志望を含めると72.4%)</p>	<p>(4) (あ) 第一志望希望進路達成率 H29: 3年第1志望の希望進路達成率3月末で50% 第2志望まで含めると73% ○</p>
	<p>(5) 新学習指導要領や中教審答申に対応した授業や評価の実施</p>	<p>(5) (あ) アクティブラーニング型の授業を試みる。 (い) ルーブリックの活用を試みる。</p>	<p>(5) (あ) (い) 各教科で年間1回以上実施する。</p>	<p>(5) (あ) (い) 全教科で実施 ○</p>

<p>2 5つの基礎力を育成する事で自律し、自立できる生徒の育成</p>	<p>(1) 国際交流 【対人基礎力・処理力】の伸長</p> <p>(2) 生徒会活動 【対人基礎力・対課題基礎力】の伸長</p> <p>(3) 部活動 【対自己基礎力・思考力】の伸長</p>	<p>(1) (あ) 国際教養科の専門的な国際交流は現状を維持発展させる。普通科における交流は生徒会中心の国際交流員会での取組みを強化する。 フィンランドの交換短期留学とオーストラリア語学研修の実施。 校内の人権教育・国際理解教育の校内体制の再検討による新たな体制づくり。</p> <p>(い) ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。ユネスコスクールとしての学びを全校で行えるように人権学習等の計画を調整（各学年少なくとも年1回以上）する。 また、UNESCO スクールのあり方についても調査研究する。</p> <p>(2) (あ) 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活性化させる。</p> <p>(い) 佐野支援学校との交流などに取り組めるようにする。</p> <p>(3) (あ) 部活動の奨励はもちろんだが、学習活動とのバランスについて丁寧に指導する。</p> <p>(い) 部活動生徒への自尊感情育成を通じて連帯感を高め、学校の求心力として育む。そのために定期的に全部員会合などの機会を設けて指導する</p>	<p>(1) (あ) 国際理解教育等への肯定感向上 (学校教育自己診断 「よく」と「やや」合わせて H28:77.1%)</p> <p>(い) 同上</p> <p>(2) (あ) 生徒会活動への肯定感の向上 (学校教育自己診断 「よく」と「やや」合わせて (H28:80.9%)</p> <p>(3) (あ) 部活動を通じても学習指導を試み、部活動参加者の学習状況の把握を行う。 学習との両立ができているとの肯定感向上をめざす。(H28年度:保護者指標 よく当てはまる22%、生徒指標よく当てはまる17.2%)</p>	<p>(1) (あ) 国際理解教育等への肯定感向上 学校教育自己診断 H29:81.3% ※大きく数字が伸びた○</p> <p>(い) ユネスコ部活動などのユネスコスクールとして取組が、泉佐野市政策コンテスト最優秀賞、ボランティア・アワード2017全国大会最優秀賞受賞など対外的に評価された。国際問題の学習等人権学習も各学年で行った。○</p> <p>(2) (あ) 生徒会活動への肯定感の向上 学校教育自己診断 H29:84.7% ※大きく数字が伸びた○</p> <p>(3) (あ) 学習との両立ができているとの肯定感向上をめざす。 H29: 保護者指標 よく当てはまる20.4%、生徒指標 よく当てはまる21.2% ※保護者がやや下がり、生徒が大きく上がった。全体として向上した。○</p>
<p>3 シキメンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる新たな学校づくりへ挑戦</p>	<p>(1) 規範意識の醸成と成長を促す</p> <p>2) 「来てよかった学校」づくり</p> <p>(3) 積極的な広報</p>	<p>(1) (あ) 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。</p> <p>(い) 高校1年生の母校訪問を含め、中学生から「あこがれられる」高校生としてのあり方を追求する。 *ボランティアや出前授業など</p> <p>(2) (あ) 従来からの学校生活に対しての高い満足度を維持する。</p> <p>(い) 卒業時に進路満足度調査を行い、進路獲得の満足度を調査する。</p> <p>(う) 入学時の学力調査との比較を行い、伸び率が最大になるように学習産業を活用したデータをもとに指導する。また、学習環境調査も活用して、学びの環境づくり(人間関係や施設など)に尽力する</p> <p>(3) (あ) 全員で広報する体制をさらに強化する。</p> <p>(い) 広報スタイルをさらにブラッシュアップする。さらに広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)の刷新を行う。</p>	<p>(1) (あ) 年間総遅刻数が2000回を目標とする。 (H28:2,407回)</p> <p>(2) (あ) 学校教育自己診断アンケートによる満足感85%をめざす。 (28年度84.0%)</p> <p>(い) 3年次8月の第1志望の進路希望先に対する達成度(3月末時点) (H28:3年151/352の42.9%)</p> <p>(3) 学校説明会や体験授業の参加者がのべ900人の維持をめざす。 (H28:校内 約840名 校外 約200名)</p>	<p>(1) (あ) 年間総遅刻数 (H29:2,147回) △</p> <p>(2) (あ) 学校教育自己診断アンケートによる満足感85%目標。楽しく通っている H29:82.9% △</p> <p>(い) 3年次8月の第1志望の進路希望先に対する達成度 H29:3年第1志望の希望進路達成率3月末で49% 昨年度より上昇している。○</p> <p>(3) 学校説明会や体験授業の参加者がのべ1000人を超えた。○ (H29:校内 約1,120名 校外 約250名)</p>